

行政調査報告書「少子化対策特別委員会」

令和7年10月27日～29日

■岐阜県大垣市 『妊活検診費の助成事業及び子育て支援施策について』

近年の晩婚・晩産化や不妊への関心の高まりを背景に、妊娠を希望する夫婦が早期に検査を受け、必要に応じて適切な治療へ繋げることを目的として妊活検診費助成事業を実施している。検査は、精液検査及び卵巣が卵子をどの程度排卵できるかを調査する抗ミュラー管ホルモン(AMH)検査からなる。プレコンセプションケアの理念にもとづき、妊娠前の段階から男女双方の健康管理を支援する仕組みを整備しており、少子化対策の入口支援として有効であると感じた。子育て支援施策では、子ども・若者モニターの募集をし、市政運営に世代の意見を反映する仕組みを整備されており、参考となる事例であると感じた。



■兵庫県姫路市 『子どもの未来健康支援センター「みらいえ」におけるプレコンセプションケア事業について』及び『卵子凍結費用及び不妊治療ペア検査助成事業について』



「みらいえ」は、思春期から妊娠・出産期、子育て期を切れ目なく支援する拠点施設で、命の大切さや性教育を学ぶ市内全中学生対象の「思春期出前授業」に加え、乳幼児から小学3年生までの児童と保護者に対し、親子で学ぶ「性教育講座」を開催している。女性のキャリアを支援する卵子凍結に関する支援やカップルで受けられるペア検査助成事業など幅広い施策も展開されている。本市においてもプレコンセプションケアを基盤とした包括的な支援体制の構築が、今後の少子化対策の方向性として重要と感じた。

■福岡県 『福岡県プレコンセプションケアセンターの取組について』

全国初のワンストップ型公的相談・情報発信拠点として令和6年4月に設置された。福岡県が一般社団法人福岡県助産師会に事業を全面的に委託しており、連携しながら相談人材を育成している点は大変参考になった。助産師や専門医に直接相談できることで、日常の小さな不安から専門的な悩みまでカバーできる。オンライン相談の充実、マンガ、動画制作及びSNSを活用した周知啓発、出前講座等が実施されており、性に悩みや問題を抱える若い世代がアクセスしやすいよう工夫がされていた。本市としても相談窓口にアクセスしやすい体制や手段について、整理していく必要があると感じた。

